

平成 28 年度のごみ排出量等について

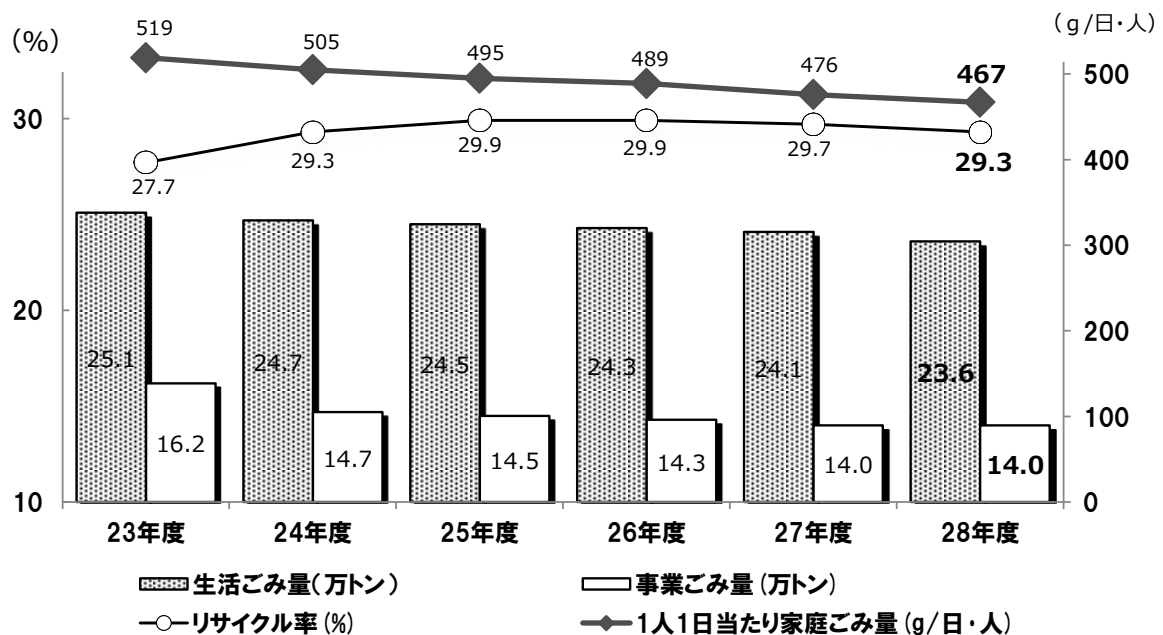
1 ごみ処理基本計画に定める目標値に対するごみ排出実績

(単位：トン)

	27 年度	28 年度	前年度 差異	32 年度 目標	28 年度と 目標との差異
人口 (万人)	108.2	108.5	0.3	108.8	0.3
ごみ総量	381,036	376,033	△5,003	360,000	△16,033
生活ごみ	240,555	236,181	△4,374	238,000	1,819
家庭ごみ	188,611	184,897	△3,714	177,000	△7,897
家庭ごみ 1 人 1 日 (g/人日)	476	467	△9	450	△17
資源物 (※)	47,926	47,324	△602	58,000	10,676
粗大ごみなど	4,018	3,960	△58	3,000	△960
事業ごみ	140,481	139,852	△629	122,000	△17,852
リサイクル量	141,314	136,791	△4,523	165,000	28,209
本市リサイクル量	47,164	45,977	△1,187	56,000	10,023
民間リサイクル量	94,150	90,814	△3,336	109,000	18,186
リサイクル率 (%)	29.7	29.3	△0.4	35	5.7
燃やすごみの量	329,294	325,903	△3,391	305,000	△20,903

※資源物：紙類、缶・びん・ペットボトル等、プラスチック製容器包装の合計

2 ごみ量・リサイクル率の推移



3 家庭ごみに含まれる資源物・生ごみの割合の推移

(単位：%)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
資源化できるもの	43.8	44.0	47.1	48.1	42.0	48.0
紙類 計	29.8	28.8	30.8	32.0	27.3	29.0
新聞紙	4.5	4.2	6.0	5.5	4.0	3.9
段ボール・紙パック	1.8	2.4	1.9	2.2	2.6	1.9
雑誌	5.4	5.3	4.7	7.7	3.5	4.4
雑がみ	18.1	16.9	18.2	16.6	17.2	18.8
プラスチック製容器包装	7.9	8.6	10.1	10.5	9.3	12.5
布類・缶びん等	6.1	6.6	6.2	5.6	5.4	6.5
生ごみ	34.6	35.3	32.6	31.3	35.0	26.9
資源化できないもの	21.6	20.7	20.3	20.6	23.0	25.1

※環境局施設課検査係が毎月実施している家庭ごみ組成調査結果より

4 考察

④ 生活ごみは、前年度比で4,374トンの減量、そのうち家庭ごみは前年度比で3,714トンの減量となった。平成28年6月からWAKE UP（ワケアップ）！仙台キャンペーンを展開し、ごみの減量やごみに含まれる資源物の分別徹底に力を入れて行った結果と考えられる。

一方、家庭ごみに含まれる資源物のうち、再生可能な紙類（雑がみ）とプラスチック製容器包装の割合が依然として高いことから、引き続き啓発等に努めていく必要がある。

④ 事業ごみは、前年度比629トン減少のほぼ横ばいである。事業ごみ展開検査の実施状況等から産業廃棄物や再生可能な紙類の搬入がいまだに多い状況が見られる。平成30年4月事業ごみ等処分手数料を改定するとともに、排出事業者がごみ減量・分別に取り組める環境づくりを進めていく。

④ 民間リサイクル量が3,336トン減少したことなどから、リサイクル率が0.4ポイント減少した。集団資源回収や事業系紙類の回収量の減少が主な要因となっている。

事業者が無料で利用できる紙類回収拠点を、市内4か所の環境事業所に加え、平成29年3月から市内の古紙問屋等の協力で「事業系紙類回収ステーション」を市内18か所に設置したほか、商店街等で共同の資源物回収施設を設置する際の補助事業を行うなど、リサイクル率向上となる施策を進めていく。